

平成15年度 施策評価表

○総合計画における位置付け等

平成15年6月9日記入

基本目標	Ⅲ ▼ 躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	32420
政策名 (章)	第2章 質の高い都市基盤の整備を進めます	評価担当課	都市部 ▼
基本施策名 (節名)	第4節 自動車・自転車駐車対策の推進		駐車場対策課
施策名	自転車駐車対策の推進	課長名	中村 有司

1 施策の概要・目的

人や環境にやさしい乗り物である自転車の適正な利用を促し、かつ自転車駐車を確保する事によって放置自転車の減少を目指し良好で安全な歩行空間の確保を図る。

2 施策の現状

効果的な撤去作業、移動保管費用の値上げ、放置防止監視員(ガードマン)の配置等により放置自転車の総数は減少してきているが、場所によっては放置自転車がまだ多い現状である。

3 総事業費及び人員

(1) 施策に要している総事業費

437,964 千円……構成事務事業全体の事業費合計(人件費含む)

(2) 市民1人当りの事業費

711 円/人……人口は、**61.6** 万人とした。(平成15年4月1日現在人口)

(3) 全施策中の順位(事業費)

この施策の市民一人当たり事業費は、全123施策のうち、第 **56** 番目です。

(4) 施策に要している人員

3.51 人……構成事務事業全体の人員合計

4 評価指標

指標	指標名および指標式	指標の意図	現状値と目標値			目標
			現状	目標	達成度	目標年度
指標1	自転車基本計画の達成率 既に達成している事業/基本計画での事業×100	本市の自転車対策の基本となるものであり、その達成状況を把握する。	32 項目 単位	46 項目 単位	69.60%	平成22年度
			現状	目標	達成度	目標年度
指標2	自転車駐車場整備率 公共自転車駐車場/平成22年における需要台数×100	H22年の需要予測に見合う自転車駐車場が整備されているか把握する。	45,367 台 単位	44,483 台 単位	102.00%	平成22年度
			現状	目標	達成度	目標年度
指標3			単位	単位		目標年度
			現状	目標	達成度	目標年度

5 必要性…市民ニーズに合っているか、行政需要の変化に対応しているか

自転車は利便性、経済性に優れた身近な交通手段であり、排出ガスを出さない環境にやさしい乗り物として益々の利用促進が望まれているが、放置自転車による歩行環境の悪化、緊急車両の通行妨害等の社会問題も引き起こしている。そのためにも放置自転車対策はさらに重要となってきている。

6 有効性…期待される効果があがっているか

放置自転車の受け皿となる自転車駐車場の整備・維持管理、より柔軟な撤去を可能にするための保管所の充実は有効であるが、とりわけ放置の多い地区での放置防止監視員等による自転車駐車場への案内・啓発活動は有効である。

7 効率性…費用対効果が優れているか、もっと大きな効果が得られるものはないか

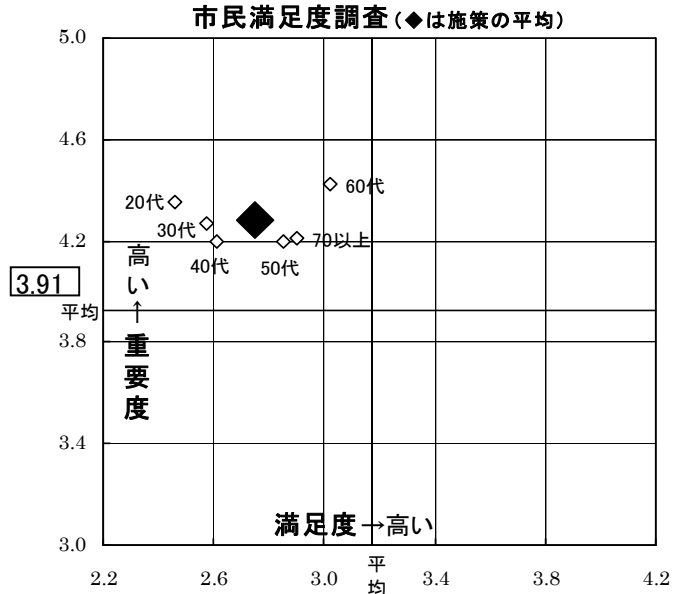
これからは、自転車駐車場を市で整備・維持管理するだけでなく、民間活力の導入が費用効果の面からも有効だが、さらに多くの利用が図られるような助成制度等の見直しも必要である。また、今年度より自転車や駐車スペースを効率的に利用できるレンタサイクルを相模大野自転車駐車場で実験的に実施する。

8 市民満足度調査結果からの分析(平成15年度調査)

- ◆この施策の満足度は、2.751で、調査した51施策の中で51番目です。
- ◆この施策の重要度は、4.283で、調査した51施策の中で6番目です。
- ◆この施策の改善要望度は、1.083で、調査した51施策の中で1番目です。

◇年齢別にみると、満足度は60歳代で最も高く、加齢とともに高くなる傾向がみられます。重要度は60歳代及び20歳代で高く、40歳代、50歳代、70歳以上で低くなっています。

市民満足度調査は、基本施策51項目(節)について調査しています。したがって、上位の基本施策が同じ場合は同じ内容となっています。(「〇総合計画における位置付け等」参照)



9 課題…施策を実現するにあたり、課題となっていること等

効率的な撤去、放置防止監視員の配置等により放置自転車の総数は減っているが、場所によっては依然多く、さらに放置の広域化という問題が発生してきており、それに対応した柔軟な撤去や人的配置が必要となっている。自転車駐車場については利用の少ないところもあり、場所、設備、料金体系など市民の求めに応じた、より利便性が高い施設にする必要がある。また、最近、施設内での自転車の盗難が全国的に増えてきている。このため、より安全性や防犯性が高い、利用者が安心して利用できる更に質の高い管理運営が望まれている。

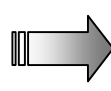
10 今後の方向性(一次評価)

今後の方向

拡充する

現状維持する

見直し



説明及び具体的内容

自転車の利用は、環境面、経済性、健康面など、なお一層の利用が予測できるが、放置自転車等の問題もより一層深刻化していく事も予想できる。そのため、当施策を拡充させ、放置自転車のない安全な歩行空間の確保等が重要である。

11 2次評価

説明

A

B

C

市民満足度調査における改善要望度が高いことを踏まえ、放置自転車対策については、行政と民間の役割分担の中で見直しを図りつつ、関係機関との連携によりハードとソフトの両面において有効性のある事業を検討すること。

12 外部意見

説明

歩行者の安全確保、まちの良好な景観形成の上から駐車問題に対して、積極的に取り組むべきである。

